



令和7年4月20日（日）、十和田市にて稲生川ウォークが開催されました。本イベントは十和田市発展の礎となった「稲生川」の歴史を後世に伝えるため、平成13年から開催されているウォーキングイベントです。今年は県内各地から117名がイベントに参加しました。



【準備体操（法量親水公園にて）】



【スタート地点（稲生川頭首工）】

稲生川は5千円札の肖像に選出されたこともある新渡戸稲造の祖父、新渡戸傳（つとむ）が当時不毛の原野だった三本木原（現在の十和田市周辺）に十和田湖から農業用水を引くため、1855年に着工し、現在も改修を重ね利用されている農業用水路です。

頭首工近くの法量親水公園で準備体操をした後、5km、14km、20kmの3つのコースに分かれ、稲生川にまつわる歴史の解説を各所で学びながら踏破を目指しました。

イベント当日、スタート地点の桜はつぼみの状態でしたが、市街地に入ってから徐々に花開き、一部の樹では満開を迎えていました。稲生川にかかるように枝を伸ばした桜の花を眺めながら、参加者は心地よい汗を流しゴールを目指していました。



【稲生川沿いの桜】

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>